

みと・あかつかカンファレンス

差出人: みと・あかつかカンファレンス <admin@kankan2025.jp>
送信日時: 2019年7月4日木曜日 22:52
宛先: 'renkei2@itic.pref.ibaraki.jp'
CC: 'hokkaido@yomiuri.com'; 'hakodate@yomiuri.com'; 'asahikawa@yomiuri.com';
'kushiro@yomiuri.com'; 'otaru@yomiuri.com'; 'kitami@yomiuri.com';
'tomakomai@yomiuri.com'; 'iwamizawa@yomiuri.com'; 'aomori@yomiuri.com';
'morioka@yomiuri.com'; 'akita@yomiuri.com'; 'yamagata@yomiuri.com';
'fukushim@yomiuri.com'; 'mito@yomiuri.com'; 'utsunomiya@yomiuri.com';
'saitama@yomiuri.com'; 'chiba@yomiuri.com'; 'tomin@yomiuri.com';
'koto@yomiuri.com'; 'musasino@yomiuri.com'; 'tachikawa@yomiuri.com';
'hachioji@yomiuri.com'; 'yokohama@yomiuri.com'; 'niigata@yomiuri.com';
'toyama@yomiuri.com'; 'kanazawa@yomiuri.com'; 'fukui@yomiuri.com';
'kofu@yomiuri.com'; 'nagano@yomiuri.com'; 'gifu@yomiuri.com';
'shizuoka@yomiuri.com'; 'chubu@yomiuri.com'; 'tsu@yomiuri.com';
'otsu@yomiuri.com'; 'osaka2@yomiuri.com'; 'kobe@yomiuri.com';
'nara@yomiuri.com'; 'wakayama@yomiuri.com'; 'tottori@yomiuri.com';
'matsue@yomiuri.com'; 'okayama@yomiuri.com'; 'hiroshima@yomiuri.com';
'yamaguchi@yomiuri.com'; 'tokushim@yomiuri.com'; 'takamatsu@yomiuri.com';
'matsuyama@yomiuri.com'; 'kochi@yomiuri.com'; 's-syaka1@yomiuri.com';
'saga@yomiuri.com'; 'nagasaki@yomiuri.com'; 'kumamoto@yomiuri.com';
'miyazaki@yomiuri.com'; 'kagoshim@yomiuri.com'; 'naha@yomiuri.com'
件名: 通達（みと・あかつかカンファレンス）*メディア対策室；安倍晋三 首相案件（ムチン騒乱）【令和の改
新】#令和の号令

茨城県産業技術イノベーションセンター 御中

ムチン奇譚：我が国における誤った名称の起源

丑田 公規

胃液のような動物粘液の主成分が糖タンパク質で、それをムチン¹⁾と呼ぶことは科学的に正当であるが、唯一わが国だけでは、野菜や根菜類全般の「ねばねば成分」をムチンと呼ぶ誤った用法が蔓延しており、消化器官の健康解説、調理レシピ、食材や健康食品の効能紹介、地方特産野菜広告など、媒体を問わず、多数の掲載例がある²⁾。科学的には、ムチンは動物界 (Kingdom of Animalia) だけに存在し、植物やキノコ類には見いだされていないのが現状である³⁾。英語では動物粘液の mucus に対して、植物粘液は mucilage と別名称で、そもそも混同するはずがない。しかし、わが国では、研究者、調理士、栄養士などのプロにも「学校でそう習った」という方が多数いる。本稿ではその原因となったと思われる歴史的経緯の一部を紹介したい。

鎖と呼んでいる。

「多数含む」というところは、あいまいではあるが、糖鎖の親水性がペプチド鎖の疎水相互作用を壊して、高次構造が不定（たとえば、ひも状）になることが一つの目安である。また、ペプチド部分のアミノ酸配列（アボムチン）は、もともと遺伝子にコードされているが、タンデムリピートと呼ばれる繰り返し構造を作りやすく、繰り返し回数の決まらないときは、分子量の一定しない多形ペプチドになることがある。物質としてのムチンの範囲には、今でも不明瞭な点がある⁴⁾。たとえば、細胞外マトリックスに存在するプロテオグリカン (PG) は糖鎖部分が、グリコサミノグリカンであるが、構造を根拠に PG を物質としてのムチンに含む場合もある一方で、粘液や膜でなく、細胞外マトリックスに存在する PG は

<http://kankan2025.jp/#mhlw>

https://www.sbj.or.jp/wp-content/uploads/file/sbj/9701/9701_kaisetsu.pdf

学術秘書
池田です。

ご承知おきください。

<http://kankan2025.jp/>

では。

この件に関するお問い合わせ先：

みと・あかつかカンファレンス事務局長
ラクトース研究班「いもいち 2025」班長代理
有限会社学術秘書
本店営業部

池田剛士

〒311-4141

茨城県水戸市赤塚 1-386-1-107

電話：029-254-7189

携帯：090-4134-7927